

### 【3】研究開発単位Ⅲ「GLOBAL STUDIES」

#### (1) 授業で資質向上プロジェクト

このプロジェクトは、中学高校の各授業の中で、本校の定める資質・能力を向上させ、未来行路やSOZAN国際塾での取組の基礎を作ることを目標としている。従って、今年度一部修正・改良した「Global Can-do List」を活用した授業がどれだけ行えるかが重要となる。さらに今年度は、授業を通して「Global Can-do List」で示す目標を達成できたかどうかの検証方法を開発することを目標とした。

#### (ア) 1年間の取組

月	事業
4月	中高合同統一テーマの決定，研究開始 Global Can-do List を活用した授業の開始
5月	教科テーマの決定および研究計画書提出 アドバイザースタッフの決定・委嘱 Global Can-do List を活用した授業の実践 グローバル・スタディーズ通信第1号発行
6月	Global Can-do List に沿った授業の実践 岡山操山中学校・高等学校教育研究会（英語）の開催
7月	Global Can-do List を活用した授業の実践
8月	Global Can-do List を活用した授業の実践
9月	グローバル・スタディーズ通信第2号発行 Global Can-do List を活用した授業の実践 中高合同研修会の実施（Chromebook の活用）
10月	グローバル・スタディーズ通信第3号発行 Global Can-do List を活用した授業の実践
11月	グローバル・スタディーズ通信第4～9号発行 Global Can-do List を活用した授業の実践 岡山操山中学校・高等学校教育研究会の開催
12月	Global Can-do List を活用した授業の実践
1月	Global Can-do List を活用した授業の実践
2月	Global Can-do List を活用した授業の実践 中高合同研修会の実施（Chromebook の活用）
3月	GLOBAL STUDIES 総括会議 研究紀要「操山論叢」発行

#### (イ) 中高の統一テーマの設定

4月に、取組の目標となる中高の統一テーマを次のように設定して取り組んだ。

グローバル・リーダーの育成に向けた取組  
～Global Can-do List の活用と検証方法の開発～

この統一テーマのもと、各教科が主体となって教科テーマを設定し、研究計画書に沿ってグローバル・リーダーの育成に取り組んだ。次の表は、各教科の教科テーマである。

教科	教科主題
国語科	Global Can-do Listを活用した授業改善の取組
地歴・公民・ 社会科	グローバル・リーダーに必要な資質・能力を高める授業実践 ～ Global Can-do Listに応じた指導 ～
数学科	授業で育てる資質を踏まえた課題学習における教材開発
理科	効果的な仕掛けづくりとその検証法の開発
保健体育科	コミュニケーション能力と 課題解決能力の向上を目指した表現活動の実践
芸術科 (音楽)	新指導要領をふまえ、音楽活動を通じた課題解決・コミュニケーション能力を育成するための課題、指導法の研究
英語科	SACLAとGlobal Can-do Listをベースに、 言語活動を高度化させる指導法の研究
技術・家庭科 (技術)	課題解決能力の向上を目指した製作活動の実践

#### (ウ) アドバイザリースタッフによる研究

教科「情報」を除く7つの教科でアドバイザリースタッフを大学や総合教育センターの指導主事にアドバイザリースタッフ（全8名）を依頼し、1年を通じて、授業改善に向けた指導をしていただいた。

教科	アドバイザリースタッフ
国語科	ノートルダム清心女子大学文学部 准教授 伊木 洋
地歴・公民・社会科	ノートルダム清心女子大学文学部 教授 河合 保生
数学科	岡山大学大学院教育学研究科 教授 岡崎 正和
理科	岡山大学大学院教育学研究科 教授 喜多 雅一
英語科	岡山大学大学院教育学研究科 教授 高塚 成信 関西大学外国語学部 教授 今井 裕之
芸術科（音楽）	岡山県総合教育センター 指導主事 大辻 慎一郎

#### (エ) 研究計画書の作成

各教科の取組が計画的な取組となるように、5月初旬に各教科が「研究計画書」を作成し、1年間を通して計画的に取組めるようにした。

#### (オ) 中高合同研修会の開催

○9月27日～10月1日に、中高の教員が参加する中高合同研修会（講義およびワークショップ）を「Chromebookの使い方」をテーマに行った。

講師：高校 教頭 森 泰三 教諭 小池 毅

○2月6日に、中高の教員並びに外部にも呼びかけ、次の内容で、公開授業・研究協議を行った。

- ・ 5 限 公開授業① 図書館 高校 2 年（現代文）教 諭 平野 優
- ・ 6 限 公開授業② 図書館 高校 2 年（古文） 教 諭 遠藤 摂夫
- ・ 7 限 研究協議 図書館（1 号館 3 階）

①Chromebook 導入の経緯 ②本日の授業説明 ③質疑・応答

④研究協議：「学校教育における Chromebook 活用の可能性」

（カ）「岡山操山中学校・高等学校教育研究会」の開催

取組の成果を公表する場として、11 月を中心として 6 つの教科が中高の授業を校内外に公開した。校外からは中学・高校の教員など合計 69 名（アドバイザースタッフを含む）の参加があった。この研究会の開催により研究成果を外部に発信できたばかりでなく、外部参加者を含んだ研究協議により、新たな課題を発見すると共に貴重なアドバイスを多数いただくことができた。また、この公開授業に向け、アドバイザースタッフから指導案の作成に関し、多くのご助言をいただいたが、研究協議の場でも実際の授業を拝見しての感想や改善点などご指摘をいただき、研究を深めることができた。

教科	実施日	中学校授業者（学年・教科）	高校授業者（学年・教科）
国語科	10月31日 (木)	坪井 晶広 (1年・国語)	武田 みちの (2年・現代文)
地歴・公民・ 社会科	11月25日 (月)	阿部 泰久 (2年・社会)	安藤 嶺 (2年・地理 B)
数学科	11月25日 (月)	尾川 晃平・奥村 剛士 (3年・数学)	岡崎 信雄 (1年・数学 A)
理 科	10月8日 (火)	塩飽 修身 (3年・理科)	加門 卓弥 (3年・化学)
芸術科 (音楽)	11月19日 (火)	斎藤 美保 (1年・音楽)	佐藤 量太郎 (高校1年・音楽 I)
英語科	6月25日 (月)	—	山本 浩史 (3年・コミュニケーション英語Ⅲ)
	11月25日 (月)	矢吹 仁志 (3年・英語)	杉山 良介 (1年・コミュニケーション英語 I)



国語



数学



芸術（音楽）



外国語



理科



地歴・公民

#### (キ) 研究紀要「操山論叢」の発行

今年度、中高の統一テーマのもと、1年をかけて研究・実践を行ってきた。その成果発表の場として操山中高教育研究会を行ったが、本校の取組を見ていただけるのは参加者に限られる。そこで、本校の取組を広く知ってもらい、各学校の取組の参考にしてもらうため、7つの教科の1年間の研究の成果を研究紀要「操山論叢」にまとめ、年度末には県内の教育機関（岡山市内の中学校、県下の高等学校など）に配付する予定である。

## (2) 英語力向上プロジェクト

### (ア) SACLA の改訂と GCL の活用

年度当初に到達度目標を確認し、目指す生徒像を共有すると共に、各年次での取組を明確にした。

### (イ) 教科会議(B-up!)を通じた協議と情報共有

今年度も、週1回(月曜3限)の中高合同の会議を行いながら、全体で「目指す生徒像」や、それぞれの学年における情報と課題を共有し、6月の公開授業(中高)までに SACLA, Global Can-do List の改訂を行った。

また、「CLIL(Content and Language Integrated Learning)」の視点をもった授業展開を議論し、他教科との TT をこの会議で計画し、「深さ」を求めた取組に発展性を持たせる取組を行った。

### (ウ) 「目指す生徒像と Global Can-do List」

自己評価(Achievement Check)の時間を全学年で設け、SACLA のスキルトレーニングと GCL の資質を伸ばすアプローチをバランス良く組み合わせ、継続的に学習者と授業者の PDCA を確立させていくことを目指した。

### (エ) 授業実践と公開授業

#### ① 「第1回 SOZAN GLOBAL STUDIES」公開授業(教育研究会):資料 [1]

6月25日(火)に第1回の研究会を開催した。

高3『コミュニケーション英語Ⅲ』の授業において、レッスン終了後の自己評価の時間(アチーブメント・チェック)の時間を公開した。レッスンで学んだ内容を基に、統合技能の到達度と資質面の到達度をその場でタスクを与え、どれくらい英語を運用できるかについてアチーブメント・チェック・シートを使って自己評価する。さらに、自由記述により学習や話題に対しての振り返りをさせることで、英語の学習にどのような効果が現れているかを授業と研究協議とのセットで考える場を設定した。

アドバイザースタッフの先生方から、生徒へのフィードバックの不足、連続性のない活動などを指摘されたが、自己評価をしながら学習調整を行う手法については高く評価された。さらなる授業改善に向けた期待と、今後の方向性に向けた課題について、有益なフィードバックを受けることができた。

#### ② 「第2回 SOZAN GLOBAL STUDIES」公開授業(教育研究会):資料 [2] [3]

11月25日(月)には、中高における今年度の取り組みの成果発表として教育研究会を開催し、公開授業を高校1年生(コミュニケーション英語Ⅰ)と、中学校3年生(英語)で行った。

高1では、『コミュニケーション英語Ⅰ』の教科書において、その内容でタスクリーディングを行いながら、ペア活動を行った。本文の内容を読んだり、授業者の英語による説明を聞いたり、スライドを見ながら理解を深め、ペアワークを間に挟みながら言語活動を取り入れ、内容と言語の内在化を図り、最終的にストーリー・リテリングにつなげる展開であった。

アドバイザースタッフの先生方からは、生徒に「足場かけ」が多すぎて、自ら自身の言語材料を使ってチャレンジする場面がなく、負荷がかからない活動が多かったとの指摘

を受けたが、授業者の **communicative** な英語によるアプローチで、良質なインプットが保障されているとの評価をいただいた。

中3の授業では、「学校の掃除」をテーマに、自分たちの考えをディスカッション形式でやりとりを行った。場面描写で本時の話題について興味付けを行い、**ALT** や **JTE** の考えを読み、意見の述べ方や説得力のある表現などをインプットした後、生徒同士活動しながらブレイン・ストーミングを行い、自分たちの考えをまとめた。クリエイティブな発想を披露する生徒や豊富な語彙を駆使して自分の意見に説得力をもたせる生徒もおり、非常に活発な授業を展開していた。

アドバイザースタッフの先生方からは、「生徒は **structure** を重視した発話が多かった。大切なのは内容であり、形ではない。グループ内の意見を1つにまとめるのではなく賛成・反対両者の意見をそれぞれグループ内でまとめる方が、より学びも深いのではないか」とのご指摘をいただくと同時に、良く構成された授業展開であり、インプットも豊富で、生徒も学べる部分が非常に多かった授業であったとの評価もいただいた。

### ③「第3回 SOZAN GLOBAL STUDIES」研究授業（校内研修）

2月17日（月）には今年度の最後として校内研修を予定している。ここ数年、内容と言語を統合したアプローチの研究を続けており、今年度実験的に中学校において、理科と英語の教員によるTTを行い、通常の英語の授業で、いかに深い内容に迫れるかきっかけにしていきたい。また、他教科とのコラボの可能性も模索していく機会にしたいと考えている。

### ④共有と普及の取組

今年度も情報共有や発表などの機会を昨年度に続き得ることができた。

○「日本教育新聞」による英語科の取組の紹介：5月

実践事例の紹介として、日頃行っている活動とそのねらいが紙面上で紹介された。

本校の **Global Can-do List**, **SACLA** ならびに **Achievement Check Sheet** を用いた指導と評価の一体化に向けた授業改善の取り組みが具体的に紹介され

### ⑤Achievement Check Sheet を活用した P D C A の確立とその効果

昨年度、生徒の自由記述に注目し Achievement Check Sheet を変更し、1時間で自己評価を行えるよう改善した。今年度は、引き続き生徒の自由記述に焦点をあて、高校3年間で生徒がどのように変容し、GTEC の技能評価との関連性にも注目しながら授業改善への次のステップにつなげていきたい。

(オ) 生徒の変容：GCL の自由記述とその分析と GTEC スコア

#### ①生徒 A

1年生：「自分の考えを身振りや手振りを使いながら表現することができた」

2年生：「グループの中に実際に **Ashura** を見に行った人がいて、より良い話し合いができたと思う。今までの **Lesson** と関連付けて思考することも大切だと思った」

3年生：「すべての意見交換を英語で行うことができた。また、自分の意見を伝え、その上でグループの意見をまとめて発表することができた。



分 析：1年生では単純に自分のパフォーマンスを振り返っていた（スキル）。2年生では他者の意見をもとにグループワークが成立したことに触れている。（やりとり）また、レッスンの話題だけにとどまらず、それが普遍性をもった大きなテーマにつながっていることへの気づきにつながっている（興味）。3年生ではグループのまとめ役としてリーダーシップを発揮しようとしていることが読み取れる（やりとり）。

1年生 R: 179 L: 194 W: 235

2年生 R: 212 L: 220 W: 252

3年生 R: 203 L: 203 W: 282 S: 237

#### ②生徒 B

1年生：「感情を説明するのは日本語でも難しいと思った」

2年生：「みんなの意見を **Shadowing** すると理解しやすくなった」

3年生：「今日は何かいつもよりできた気がする」

分 析：1年生では自分の言語学習に対する課題を感想として述べている（学習方法）。2年生ではどうすれば他者の意見を理解することができるかという課題に対して自分なりの解決策を見出すとともに（課題解決）、グループでのやりとりに目を向けるようになってきている（やりとり）。3年生では自分のパフォーマンスに関する感想に逆戻りしている（スキル）。

1年生 R: 172 L: 233 W: 190

2年生 R: 166 L: 247 W: 207

3年生 R: 180 L: 213 W: 208 S: 260

#### ③生徒 C

1年生：「グループの意見をなかなかうまくまとめることができなかった。もともと **summary** が苦手で、力を入れてきたつもりだったが、あまり生かせられなかったのが残念だ」

2年生：「注目したのは **Ashura** という一つの作品かもしれないけど、そこから国際的なかわりや自国の文化に対する誇りについて学ぶことができた」

3年生：（記録なし）

分 析：1年生では自分の学習課題について取り組んでいるが、まだ成果を感じておらず、テキスト本文の内容理解で精いっぱいであることがうかがえる（スキル・興味・関心）。2年生ではその理解を超えて関連テーマへの紐づけや興味の広がりを振り返りの中で表現している（興味・関心）。

1年生 R: 190 L: 221 W: 227

2年生 R: 202 L: 211 W: 188

3年生 R: 211 L: 275 W: 285 S: 283

#### ④生徒 D

1年生：「だいぶ自分の言葉で話せるようになってきた。ただ、自分でしっかり考えないといけないことはまだ英語でつたえることはむずかしい」

2年生：「言語について考えることができた。もう少し自分の意見だけでなく、相手の意

見を引き出せるような質問やコミュニケーションをしたい」

3年生：「活発に意見交換ができてよかった。人によって意見が180°違ったのでグループの意見としてどうまとめるかが大変だった。

分析：1年生では自分のパフォーマンスが第一の課題であり、自分の考えを自分の英語で伝えることの難しさを述べている（スキル）。2年生ではテーマに対する深い理解を示すとともに、自分の意見にとどまらず、他者とのやり取りを自分が中心になって行おうとするグループの中での「リーダーシップ」をほのめかす記述である（興味・関心、やりとり）。3年生では2年生での反省が活かされ、どのように意見をまとめていくかチャレンジしたあとが読み取れる。（興味・関心、やりとり）

1年生 R: 190 L: 210 W: 242

2年生 R: 198 L: 237 W: 240

3年生 R: 211 L: 270 W: 236 S: 296

⑤これらのことからわかること：

- ・言語自体、内容、他者の意見などに興味・関心の高い生徒はスキルの上昇が見られる。
- ・他者とのやりとりが中心となっている生徒はスキルの停滞が見られる。
- ・「課題解決能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」は自己評価シートに反映させる必要はなく、振り返りの自由記述に自然と現れる。
- ・「幅広く深い教養」と「社会貢献の意識」でのやりとりを通して、話題やテーマに対する理解が深くなると同時に、他のテーマとの関連性や紐づけに役立っている。
- ・インプットの質が生徒のスキル向上の直接的な影響を与える。
- ・即興性を見据えたアウトプットを目標に据えたインプットを心がけることで、表現語彙の向上につながる。→授業改善につながる。

(カ) 外部評価(GTEC)による検証

本校では毎年外部指標を使って指導の検証を行っている。高校3年生は6月、1・2年生は12月に実施している。今年度は全学年での4技能での評価を行うことができる。

GTEC（4技能）現3年推移					
CEFR-j	スコア /1280	2年（H30_12月）		3年（R1_6月）	
		単純	累積	単純	累積
B2	1190～	5	5	11	11
B1.2	1060～	16	21	29	40
B1.1	960～	44	65	49	89
A2.2	810～	139	204	104	193
A2.1	690～	56	260	25	218
A1.3	520～	8	268	0	0
A1.2	370～	0	0	0	0
A1.1	270～	0	0	0	0
Pre-A1	0～	0	0	0	0
平均		887		946.4	



1・2年のデータは結果待ちであるが、6月に実施した3年の結果ではかなりの伸びを確認することができた。B1以上のレベルにある生徒が確実に増加しており、Writing, Speakingでの伸びが顕著である。初見の素材に柔軟に対応できる力をつけることで、さらに全体のレベルアップが期待できる。

○Writing: 現3年生

1年次: 222.7/320 → 2年次: 228.7/320 → 3年次: 256.4/320 (高3全国平均203)

○Speaking: 現3年生

2年次: 255.7/320 → 3年次: 263.9/320 (高3全国平均200)

#### (キ) まとめ

これまでの蓄積から、これから目指す方向が間違いではないことを確認することができた。内容と言語を統合したアプローチを英語科で研究を進めていき、英語科内での授業改善だけでなく、他の教科との関連性を模索し、次期学習指導要領につながる取組を継続させていきたい。

①新しい Achievement Check Sheet をどのタイミングからはじめるかを見定め、その効果を検証する

1年次のある時期から、技能の伸びはMAXの自己評価が増えてくるため、ある時期まで SACLA を中心とした自己評価を行い、その後 GCL の自己評価に切り替えるなど、方策を考える。

②次期指導要領にむけた新たなGCLづくりに着手する

基本的な到達度目標は変えずに、GCLの哲学を残したままマイナーチェンジを考えていく。

③即興性の獲得とより深い Reading / Listening をベースにしたより高い表現語彙の獲得させる指導法を考える。

深い内容でのやりとりを実現するための指導法を考える。

【補足資料 [1] : 6月教育研究会 (高3)】

本時のねらい	◇ Achievement Check Sheet 参照		
Procedure (min)	生徒の活動	指導上の留意点	評価
SACLA ① Dictogloss (10)	1 Before Readingの冒頭を聞かせる 2 あと3回聞かせてメモをとる 3 メモを見ながら本文を再生する 4 ペアで読み合わせをしながら異なる部分を協議し、自分で訂正する 5 本文と照らし合わせ、自己評価する	・ペア活動を観察し、できていないペアに助言を与える。 ・できるだけ英語でやりとりをするよう促す。 ・質問に答える	◆ 活動の観察 (関心・意欲・態度) (知識) (理解) ◆ ワークシート (理解：メモ)
SACLA ② Story-retelling (10)	1 スライドのキーワードを見て、ペアで質問をしながら、本文の内容を確認する。 2 ジャンケンして勝った方が前半・後半を選ぶ。 3 本文の絵を見ながら片方が retelling を行い、もう一方が1分間に何語話すかカウントする。 4 スライドの評価規準に合わせて自己評価する	・活動内容を指示し、ペアワークを促す。 ・スライドで評価規準を示す	◆ 活動の観察 (関心・意欲・態度) (知識) (表現)
GCL ① Pair Work To share ideas (10)	1. Paul Piff が何者であるかペアで情報交換を行い、自己評価をする。 2. Paul Piff の実験や発見から興味のあることについてやりとりし、自己評価をする	・相手のいない生徒の相手役をする。 ・話が続かないペアにやりとりが続くよう発話する。	◆ 活動の観察 (関心・意欲・態度) (知識) (理解) (表現)
GCL ② Group Work Discussion (15)	1. グループを作る 2 役割を決める。(司会・発表者・質問者) 3 与えられた話題について互いに意見を出し合い、グループでの意見をまとめる 4 発表者が発表し、質問を受ける 5 自己評価をする	・活動の様子を観察し、活動がうまくいっていないグループにアドバイスを与える。	◆ 活動の観察 (関心・意欲・態度) (表現)
Assignment (5)	1 富をどう扱うべきか、自分の考えをワークシートに100語程度で表現する。	・課題の指示	◆ ワークシート (表現)

スライド資料 : Dictogloss

- Dictogloss: Introduction : Dictogloss
- Listen to the passage and Take notes
  - Let's reproduce the story.
  - Globalization has brought great benefits to the world. Between 1981 and 2012, the percent of the world's population living at or below \$1.90 a day declined from 44 percent to 12.7 percent. In East Asia, poverty declined from 80 percent to 7.2 percent. But not everyone has benefited. In most developed countries, the difference between rich and poor has increased. Economic inequality is one of the most important problems of our time.
  - (72 words)

スライド資料 : Summary

- Points for Summary: Sum up in around 70 words
- Piff's studies show that the wealthier people are, the more likely they are to pursue personal success, being less considerate of others.
  - The world is experiencing high levels of economic inequality, and success is out of reach for many. This is what everyone should be concerned about because if society loses mobility, it will lead to violence and crime.
  - Therefore economic inequality is not just a personal issue; it is a matter of international concern.
  - (72 words)
  - [Points]
  - Wealthier people
  - Economic inequality
  - International concern

スライド資料 : Story-retelling

Story-retelling: For Practice

- [Part 1]
  - ① Piff's findings
  - ② one interesting experiment
  - ③ a rigged game
  - ④ dramatic differences
- [Part 2]
  - ① meaning of the rigged game
  - ② Piff's findings
  - ③ Questions
  - ④ 10\$ test
  - ⑤ Candy test
- [Part 3]
  - ① the wealthy
    - → personal success
  - ② economic inequality
  - ③ outcomes of inequality
  - ④ economic inequality
    - = international concern
- [Part 4]
  - ① small changes in people's values
  - ② a short video about childhood poverty
    - = reminder / nudge
  - ③ signs of change in society
    - Bill Gates
    - the Giving Pledge

スライド資料 : Sharing information

GCL : Share your ideas①:

- Share your knowledge about Paul Piff.



スライド資料 : Sharing interest

Share your Ideas②:

- Let's talk about Piff's experiment you are interested in.

Study / Experiment

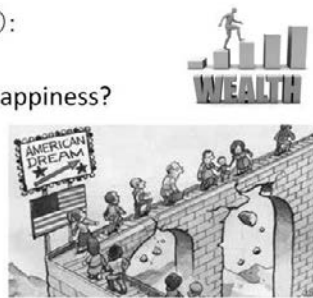
- A Rigged Game
- Questionnaire
- 10\$ test
- Candy Test



スライド資料 : Discussion(Group Work)

Share your ideas③:

- What is wealth?
- Can money buy happiness?



Share your ideas④:

- What is money?
- What do we do with wealth?

【補足資料 [2] : 11 月教育研究会 (高 1)】

本時のねらい	<p>○ペア活動に積極的に取り組む。</p> <p><b>【idea-sharing】</b></p> <p>○キーワードや図を参考にし、内容を言うことができる。</p> <p><b>【Story Retelling】</b></p>		
Procedure(min)	生徒の活動	指導上の留意点	評価
Review Quiz (5)	前時の復習小テストに取り組む。	答えを提示し、採点までさせる。	プリント (理解)
Introduction of New Words (10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CD に続いて発音をする。</li> <li>・ スクリーンに提示された単語の発音と意味を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 付加的な情報も与えながらインプットを増やしていく。</li> </ul>	活動の観察 (関心・意欲・態度) (知識)
Task Reading & Check of Understanding (Idea-sharing) (15)	スライドの図を参考に、雪の結晶の①形成過程 (図, リスニング, スクリーン) ②要因 (スクリーン) の二つを捉えていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間巡視しながら必要に応じて助言する。</li> <li>・ スクリーンに英文を提示して理解を確認する。</li> </ul>	活動の観察 (関心・意欲・態度) (知識) (理解) (表現) ワークシート (理解) (表現)
Reading Aloud (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CD につづいてフレーズリーディングする。</li> <li>・ 指導者につづいてフレーズリーディングする。</li> <li>・ 個人読みをする。</li> <li>・ Read and Look Up をする。</li> <li>・ Shadowing をする。</li> <li>・ Blank Filling をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CD やスクリーンを使い、雪の結晶の形成過程を頭に描きながら音読するよう促す。</li> </ul>	活動の観察 (関心・意欲・態度)
Story-retelling (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアで役割を決める。</li> <li>・ 提示されたヒントを元に、パートナーに雪の結晶の①形成過程②要因を retelling する。</li> <li>・ 役割を変えて行う。</li> <li>・ 語数をカウントする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ First, Second, Then などを使いながら, retelling するように促す。</li> </ul>	活動の観察 (関心・意欲・態度) (表現)
Assignment (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Part2 で習ったことをもとに、思いつく現象を英語で書く。</li> </ul>		ワークシート

# ワークシート

## Worksheet for Lesson9 Part2

1st

"Snow crystals are born in clouds thousands of meters up in the sky. First, ( a ) ( b ) Then ( c ) ( d ) ( e )"

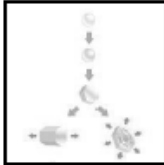
Q. Choose a suitable number for (a) to (e).

- ① water vapor sticks to the crystal, and it gets bigger and heavier.
- ② it takes about an hour for the crystal to fall to the earth from the time it is born.
- ③ a tiny water droplet freezes and becomes a six-sided ice crystal.
- ④ it is "a baby snow crystal" that is about 0.01 millimeters in size.
- ⑤ the crystal grows to a size of several millimeters as it falls through the cloud.

This is the ( ) of snow crystal formation.

2nd

Starting from a simple six-sided shape, a snow crystal grows into its own unique shape. There are two main factors that determine the shape. One is the air temperature in the clouds. Depending on the temperature, a snow crystal can spread out to become a plate-like shape, or it can grow longer and become a column-like shape. The other factor is the amount of water vapor surrounding it. The more water vapor there is, the more complex the shape of the crystal becomes.



( )

What makes these differences??



( )



There are two ( ) to determine the shape of snow crystal.

## Word Counter for Re-telling

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50

Can you write it?

I think ( ) is another good example,  
because...

---



---



---



---



---



---



---



---

Class ( ) Number ( ) Name ( )

【補足資料 [3] : 11 月教育研究会 (中 3)】

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 場面描写 [L/S] “Picture Description” 示された写真やイラストについてペアで説明しあう。	○場面描写をさせることで、話す活動の Warm-up を行う。 ○活動後、聞いてわかった内容を聞き手に発表させる。 ●「聞き手に伝わりやすい表現」を観察し、フィードバックを行う。	
2 目標の確認。	○ 他者の意見をしっかりと聞いたうえで、理由をつけて自分の意見を述べよう。 ○ 具体的な理由を述べながら、相手にわかりやすく伝えよう。	
3 議論をしている会話文を読む。 “Reading an article” [R]	○議論をしている会話文を読み、1つのピックに対して様々な意見があることを確認させる。また、それぞれの登場人物の立ち位置と主張を支持する理由を確認させる。 ○5人の生徒を指名し、黒板に登場人物の立ち位置を記入させるとともに、なぜそう考えたのか理由を説明させる。	
4 自分の考えを深める。 “Reasoning”	○自分の主張がどの立ち位置にあるかを考え、その主張を支える「論拠」を明確し、議論に備えさせる。	
5 会話文の中に出てきた役立つ表現を確認する。	○Discussion を円滑に行うために、会話文に出てきた「役立つ表現」を確認する。 ex: I agree with her in part. / That's true, but ...	
6 議論を行う。[L/S] ★Pyramid Discussion (1)“Pair Discussion”  (2)“Group Discussion”	議論の回数を重ねる毎に表現の幅が広がったり、流暢さが向上したりするように支援する。 ○ペアで Discussion を行い、議論の様子を観察する。 [1] Face Partner と議論させる。 [2] Shoulder Partner と議論させる。 [3] 会話の中で出てきた表現を抽出し、教師からのフィードバックを行う。 ○4人グループで Discussion を行い、議論を観察する。 [4] 役割や順番を確認する(セットアップ) [5] それぞれが自身の意見を述べ、その後グループで議論を行わせる。 [6] グループで意見をまとめさせる。	○相手の意見を受けて自分の考えとその理由を述べながら、議論をすることができる。 (活動の観察) 【外国語表現の能力】 【外国語理解の能力】  ○原因や結果、客観的な立場、仮定的な状況も例に出しながら具体的に理由を説明できる。 (活動の観察) 【コミュニケーション能力】
7 報告書をまとめる。[W] “Writing a report”	○グループで話し合った内容について、読み手に伝わりやすいように構成を考えながら報告書を書かせる。	
8 グループでの議論の内容を全体に報告する[L/S] “Sharing the report”	○グループで話し合った内容をクラス全体に報告させる。 ○生徒の活動へのフィードバックを行う。	
	○ 相手の意見をしっかりと聞いて、具体的な理由とともに自分の意見を言えましたか？	
9 振り返りとまとめ	○本時のまとめを行う。	



### Useful Expressions for Group Discussion

#### 1. 話し合いを始める (8分)

**a moderator**

I'm the Moderator of this discussion.

The topic is \_\_\_\_\_

Now let's get started.

What do you think of the topic, Mr./Ms. \_\_\_\_\_?

**a group member**

I think ... (意見を述べる)

**質疑**

**a moderator**

Thank you, Mr./Ms. \_\_\_\_\_.

Does anyone have questions?

Mr./Ms. \_\_\_\_\_ do you have any questions?

How about you, Mr./Ms. \_\_\_\_\_?

**a group member**

( \_\_\_\_\_ )

<2min>

**a moderator**

(2人目に) What do you think of the topic, Mr./Ms. \_\_\_\_\_?

<Repeat x 3>

#### 2. 討論を締めくくる (2分)

**a moderator**

Well, I'm afraid the time is running out. Let me finish up.

Please give some comments, everyone.

**a group member**

I think Mr./Ms. \_\_\_\_\_'s idea is good because...



#### 3. グループの意見をまとめる (5分)

**a moderator**

From now we'll summarize the discussion. (まとめを作成する)

(1) 意見が1つにまとまった時は...

Our group's conclusion is ~ because we have 3 reasons.

(2) 意見が1つにまとまらない時は...

In our group, (two) students think that ... because ~.

But (one) student doesn't think so, because~.

(3) 理由が複数ある場合...

There are ( ) reasons.

First,

Second,

Third,

#### 招員 (Members)

##### 1. 自分の意見と理由を述べる

I (don't) think \_\_\_\_\_ because \_\_\_\_\_

##### 2. 確認する

You said ..., right?

##### 3. 人の意見に賛成する

I think so too, because \_\_\_\_\_.

I agree with \_\_\_\_\_ because \_\_\_\_\_.

##### 4. 部分的に賛成する

You may be right, but I have a different opinion (reason).

I agree with you in part.

##### 5. 反対 (反論) する

I don't think that \_\_\_\_\_ because \_\_\_\_\_.

I don't agree with you because \_\_\_\_\_.

That's true, but \_\_\_\_\_.

I see your point, but \_\_\_\_\_.

Yes, but \_\_\_\_\_.

##### 6. 迷っているとき

I can't decide.

##### 7. 質問する

I want to ask (質問したい人の名前). You said \_\_\_\_\_, right?

You said \_\_\_\_\_, but I think \_\_\_\_\_ What do you think about it?

You said " \_\_\_\_\_," why do you think so?

##### 8. 言い直す

I mean \_\_\_\_\_

##### 9. 分からなかった語や意見の意味を尋ねる

What do you mean by \_\_\_\_\_

##### 10. 人の意見について確認する

Do you mean that \_\_\_\_\_?

##### 11. もう一度言ってもらおう

Would [Could] you say that again?

##### 12. 最も分かりやすかったと思う結論を発表する

I think Mr. / Ms. ~'s opinion [idea] is good because ...